

盤上遊戯を楽しむ首長たち

化粧箱(蓋付き)(標本番号H62831) ガーナ共和国

阿久津 昌三(あくつしょうぞう)

信州大学教授

西アフリカ、ガーナ共和国のアシヤンティには精巧な技からなる真鍮細工がある。真鍮製の容器はクドウオとよばれている。化粧箱の蓋には首長たちが盤上遊戯を楽しんでいる。調査をしている折に王宮前の広場で盤上遊戯を楽しむ男たちに出会うことがあるが、駒を投げつけて応酬を繰り返す盤上遊戯は「博打」というものがそもそも神々のための儀式であったのではないかを想像させるものだ。盤上遊戯は西アフリカの森林地帯から中央アフリカを経て東アフリカに広く分布する。オワレとかオワリという共通語でよばれる。

首長たちは日傘をもつ従臣たちに日差しから守られている。日傘の「突」にはアシヤンティのことわざや警句などを意味するシンボルが裝飾されている。このシンボルは双葉だろうかサンコファとよばれる鳥だろうか。



双葉であるとする(王は)声名を集める」という意味になる。サンコファだとすると「過去を振り返ってはならない」ということわざを意味する。サンコファは「見返り鳥」というアシヤンティを代表する図像のひとつである。

化粧箱の胴にはワニが裝飾されている。ワニは「陸界」と「水界」を媒介することから、アシヤンティでは祭司のシンボルとして使われている。これは祭司の化粧箱であったのだろうか。胴から蓋にかけて梯子を上ったり下がったりする二人の人間が描かれている。アシヤンティでは「一人の人間が生まれることは一人の人間が死ぬことである」という死と再生の観念があり、「死の梯子」をモチーフにしたものである。この化粧箱は「生」と「死」の世界をみごとに描いたものである。